

## 職員リレーエッセイ 「何かいる」

ニコニコホーム 世話人 吉原 光輝

最近、家の中に「何か」が居ます。自宅は一軒家ですが、1階に住んでいるおばあちゃんが、「夜中に何か音がする」、「物が急に倒れた」と初めに言っていました。その頃は気のせいだろうと特に気にしていませんでした。また少しして、2階で寝ているお母さんが又、夜中に何回も何回も「ガサガサ」と音がして、まともに寝られないという事を言い出しました。この時点で家の中に、確実に「何か」がいるという事はみんな認識しました。そこで真っ先に疑われたのが、私でした。確かに私は、モモンガ、ハムスター、ヤモリなどを飼育しています。実際に今まで何度も脱走事件はあったので、疑われても仕方がないのですが、確認すると今回はみんなケージにいるし、思い当たる所が全く無かったので、家族も私も「え…じゃあ何が居るんだ…」と得体のしれない「何か」に少し恐怖を感じました。また少しして、今度は昼間におばあちゃんが階段を上ろうと、階段下に立った瞬間、ものすごいスピードで20cm程の黒い「何か」が階段を駆け上がって行ったそうです。私の今までの人生の中での経験では、家の中ではゴキブリ位しか見たことがなかったので、なおさら正体が解らなくなりました。ですが、「動くとき音がするほどのサイズ感」「物を動かすくらい力がある」「階段を一瞬で駆け上がる機動力」という事から、昔飼育していた、ラット達を思い出しました。そしてインターネットで調べると答えは直ぐに出ました。まさか家の中にこんな生物がいるとは！…正体は「クマネズミ」でした。ラットはクマネズミ属を実験用、飼育用に品種改良された物なので、私が連想したものと同程度違いはなかったのですが、そんな生き物と一緒に暮らしていたと思うと、まずは驚きと、何故かともワクワクしてきました。家族は気持ち悪がっていたので、捕獲作戦が始まりました。私としては、「ネズミも家に迷い込んで困っているのだろう」という考えと単純に野生のクマネズミに興味があったので、粘着系トラップ、毒物などで殺したくはありませんでした。まず、最初にプラスチックの容器を裏返し、爪楊枝にひもと餌を着け簡易のトラップを仕掛けました。初日、私はどうしてもクマネズミの姿を見る事と行動パターンを観察したかったので、2階で夜中に物音がし始めてから2時間程暗闇にひたすら座っていました。私はインテリアの一部の様になっていたので、クマネズミは警戒を解き、思う存分に走り回り、飛び回り、齧りまくっていました。正直「ガサガサ」音がして、寝れないというレベルの騒音ではなかったのですが、逆にこの環境でお母さんは、なんとか寝ていたんだ…(笑)と感心しました。それから、2～3日が経過しました。クマネズミは警戒心が強く、見慣れない物や、人の匂いのする物には近づかないという習性も有り、罠での捕獲は上手いきませんでした。こうなったら直接捕ってやろう！という気持ちになり、日中に潜んでいる所も大体わかっていたので、棚をどけ、冷蔵庫の後ろの隙間をアイフォンのライトを使い覗いてみると、壁に張り付く形で、つぶらな瞳のかわいいネズミが息を潜めていました。この時点で駆除というよりは愛着が湧いてきてしまっていて、早く捕まえて！と捕獲を試みたのですが、そこはやっぱり「野生」の動物です。素手でゴキブリを捕まえる様な難易度で、失敗に終わりました。最終的には、知らない内に家の中から姿を消してしまった様で、物音もしなくなりました。少し寂しい感じもしますが、複数の食べ物の袋を齧りまくってダメにするという被害もあったので、家族としては良かったと思います。捕獲は叶いませんでしたが、刺激のある貴重な体験でした。

次は、ニコニコハウス鶴里 生活支援員兼調理員 笠原康代さんに繋がります。